

# アクション

# Runner

新型コロナウイルスの感染拡大によって世界中の行動様式は変わりつつある。金融機関においても非対面チャネルを充実させ、顧客を獲得しようとしている。口座開設や住所変更などさまざまなサービスにおいて鍵を握るのはオンライン本人確認(eKYCサービス)だ。ACSION(アクション、東京・千代田)は、eKYCだけでなく不正検知プラットフォームやフィッシング対策などオンラインでビジネスを提供する金融機関にとって不可欠なサービスを提供している。

アクションはセブン銀行とセブ銀が培ってきた金融犯罪対策のノウハウやISIDの持つフィンテックを活用したID)による合併会社。セブ



ブルーストを率いる竹内進氏(右)と膳和範氏。不正検知を兼ね備えたこれまでにないサービスだ

## 不正検知兼ね備えたeKYCサービス

### 継続的な顧客管理にも

# オンラインの共同利用型窓口

リユース型構築力などを生かして、顧客にサービスを提供している。主なサービスとして本人確認プラットフォームの「proost」(ブルースト)不正検知プラットフォームの「Detector」(ディテクター)、フィッシング対策サービスがあり、これらを組み合わせたコンサルティング事業も実施している。ブルーストは2020年12



アクションの安田貴紀氏(右)とフィッシング対策サービスを担う小澤一仁氏(中央)と瀧下孝明CIO

月にサービス開始。導入決定企業は約25社になる。「サービスの種類としてはeKYCだが、実態としてはオンラインの共同利用型窓口」と事業開発を担当する竹内進CIOは説明する。アプリなどは不要でスマホで簡単に情報を登録でき、それをブルーストが確認、企業に渡す流れになっている。将来的にはセブン銀行の新型ATMからも本人確認の登録をできるようになる。

金融機関だけでなくECサイト、サブスクリプションサービスさまざまな場所で個人情報報を求められ、その度に情報を入力し顔写真や本人確認書類を送ることが利用者に負担がかかる。ブルーストでは「共同利用型窓口」という考えのもと、登録した個人情報複数のサービスで利用できるため、何度か同じ情報を入力する必要はない。また、住所変更は連携サービスに一括で届けられるため、サービスごとの変更手続きも不要だ。

また、ブルーストは一般的なeKYCサービスとは異なり、不正検知も兼ね備える。「ディテクター」と連携しており、申し込み書類を偽っていないか、システムと目視の両方

スマホや全国のATMからかんたん登録

proostは、スマートフォンや全国のセブン銀行新型ATMでかんたんに登録できます。

※ATM対応スケジュールは調整中です。

いちいち同じ情報を入力する手間を省きます

申し込みで何度も同じ情報を入力する手間をproostが省きます。

住所変更を一括で

proostを使えば、連携サービスに簡単・安全に一括で住所変更情報を届け出すことができます。利用サービス毎の手続きは不要です。

ブルーストの特徴 (アクションHPより)

金融機関などではブルーストを顧客情報の登録だけでなく、在留期限管理といった継続的な顧客管理への活用を期待する声もあるという。各金融機関が外国人顧客に対して、それぞれメールなどを送り情報を回収するのは労力もコストもかかる。ブルーストで情報を集約することでそういった手間を省くことができ、口座が別な人物の手になりたり不正に利用されるような事案への対処にもつながる。安田貴紀CEOは「在留カードなどの本人確認や不正検知の分野は競争するところではない」と語る。また、金融機関以外にも多くの企業で導入が進むことで不正アクセスのトレンドなどに気付けることができる。自社だけで取り組む「点」よりも、さまざまな企業を巻き込み「面」で守るべきだという。

すでに多くの地域金融機関がアクションのサービスに関心を持ち、セミナーなどに参加しているという。オンラインで全てが完結する時代において、地域金融機関はこれまで以上に苦しい戦いを強いられる。安心で使いやすいサービスなど顧客目線に立つことが求められる時代が来ている。